

奈良・八条遺跡 はちじょう



(桜井)

所在地 奈良県大和郡山市八条町・天理市中町
調査期間 第一次調査 二〇〇〇年(平12) 一月～一〇〇〇年三月
発掘機関 奈良県立橿原考古学研究所
調査担当者 坂 靖・小山浩和
遺跡の種類 集落跡
調査担当者 坂 靖・小山浩和
遺跡の種類 集落跡
遺跡の年代 弥生時代・古墳時代・奈良時代・江戸時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

八条遺跡は、大和郡山市南西端部の八条町集落(環濠集落)の南側に広がる遺跡で、古墳時代・奈良時代・江戸時代を中心とした時期の集落、弥生時代の方形周溝墓、水晶塚古墳・申墓古墳など構成される。

今回の発掘調査は京奈和自動車道の建設工事に伴うもので、一九一〇mに

- 1 所在地 奈良県大和郡山市八条町・天理市中町
2 調査期間 第一次調査 二〇〇〇年(平12) 一月～一〇〇〇年三月
3 発掘機関 奈良県立橿原考古学研究所
4 調査担当者 坂 靖・小山浩和
5 遺跡の種類 集落跡
6 遺跡の年代 弥生時代・古墳時代・奈良時代・江戸時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

いて実施した。調査の結果、遺跡の東端寄りに下ツ道とその東西両側溝と考えられる遺構を検出した。下ツ道は、当該地では中街道として現代まで継承されていて、二階堂の街村を形成している。

木簡は、街道沿いの幕末から明治初期にかけての町家遺構に関連する廃棄土坑SX〇八から一点、街道から離れた位置の耕作地に関連する近世の井戸SE-三三の墨書のある井戸枠一点、計二点出土した。SX〇八は東西九m以上、南北一・八m、深さ一mを測り、木簡とともに当該期の陶磁器類、土器類、瓦、木製品、鉄製火箸などが多量に出土した。また、中国の明代の医学書である「医宗必読」の版本(和紙)を裏打ちにした龍文の赤漆・黒漆・金箔塗りの容器の断片も出土している。SE-三三は、スギの板材を縦板組にした奈良盆地通有の農業用隠し井戸で、掘形は径約三mを測るが、井戸枠は調査時には崩壊していた。井戸の深さは三・五m以上で、底付近に使用されていた板材に墨書が認められた。埋土からは瓦質の土製円板が出土している。

8 木簡の釈文・内容

SX〇八

(1) 「...。」
.....
右メ
□□
大和国平群郡
八条村
衛

